

平成 21 年 6 月 29 日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18310170
 研究課題名（和文） 多角的なジェンダーの視点による正義概念の再構築と正義感覚への架橋をめざす研究
 研究課題名（英文） Studies for connecting of the notion and the sense of justice from the multiple perspectives of gender.”
 研究代表者
 二宮 周平（NINOMIYA SHUHEI）
 立命館大学・法学部・教授
 研究者番号：40131726

研究成果の概要：

国際的なジェンダー研究の構築に努め、その内容として、芸術において表現されてきた女性たちの 20 世紀の帝国主義経験や植民地主義経験に関する研究、その延長線上にあると思われるグローバリゼーションのもとで生み出されるディアスポラ（離散）の研究、労働市場・現場における女性労働のジェンダー化、女性の移動、労働をめぐる女性の表象といった問題をめぐって、日本における先行研究においてはあまり焦点化されてこなかった、正義概念から検討を加え、公私二元論や研究分野のもつ領域性が女性の問題を不可視化していることを、明らかにした。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	2,900,000	870,000	3,770,000
2007 年度	2,400,000	720,000	3,120,000
2008 年度	2,700,000	810,000	3,510,000
年度			
年度			
総計	8,000,000	2,400,000	10,400,000

研究分野：民事法学

科研費の分科・細目：ジェンダー・ジェンダー

キーワード：ジェンダー、正義、経済格差

1. 研究開始当初の背景

行政レベルでのジェンダー問題への取り組みと、理論的な高度化が同時進行的に進む中で、なぜわたしたちは男女平等を唱えなければならないのか、といった基本的な理念は問題にされていなかった。さらに、当時の日本社会においては、ジェンダー・フリーパッ

シングという形で、憲法の下で保障されているはずの法の下での平等さえ否定してしまいかねない状況が生み出されていた。

2. 研究の目的

「正義」という普遍的理念のジェンダー的再構成を目ざしながら、司法過程、経済領域、

文化摩擦、労働市場、国際移動、移民、家族、セクシュアリティといったサブ・テーマを意識しつつ、国際比較の視点をいかし、現代日本における社会正義を実現するための男女平等、男女間の公正とはいかなるものか、いかなるものであるべきか、といった問いに答える。

3. 研究の方法

フェミニズムの視点からの社会正義論、社会学的考察を活かした性別役割分業の実証研究、文化的な個別性を免れないジェンダー観の国際比較、公私二元論の歴史的変遷過程の考察といったより総合的なアプローチから、社会構成上の根源的規範である正義を再構築。

4. 研究成果

国際的なジェンダー研究の構築に努め、その内容として、芸術において表現されてきた女性たちの20世紀の帝国主義経験や植民地主義経験に関する研究、その延長線上にあると思われるグローバリゼーションのもとで生み出されるディアスポラ（離散）の研究、労働市場・現場における女性労働のジェンダー化、女性の移動、労働をめぐる女性の表象といった問題をめぐって、日本における先行研究においてはあまり焦点化されてこなかった、正義概念から検討を加え、公私二元論や研究分野のもつ領域性が女性の問題を不可視化していることを、明らかにした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計18件)

姫岡とし子「シンポジウム「公私二元論の再考」に参加して」『国際言語文化研究』第19巻4号(2008年)237-241頁。

池内靖子「『糸地獄』における大綱的語りと身体性 「母殺し」をこえて」『シアターアーツ』28<小特集 寺山修司と岸田理生>論考(2006秋号)(発行:AITC[国際演劇評論家協会]日本センター、発売:晩成書房)58-63頁。

岡野八代「尊厳と二十四条の可能性」『法の理論』27号(2008年)53-75頁。

岡野八代「アーレントにおける国家暴力批判 暴力批判から、主権国家批判へ」『政治思想研究』第7号(2007年)4-30頁。

岡野八代「フェミニズムの新しい波 責任論の観点から」『女性・戦争・人権』第10号(2007年)66-95頁。

岡野八代「ジェンダーの政治に賭けられているもの」『法律時報』78巻1号(2006年)60-76頁。

岡野八代「承認の政治に賭けられているもの 開放か権利の平等か」『法社会学会』64号(2006年)60-76頁。

岡野八代「暴力」の主体から「非暴力」のエイジェンシーへ 世界の軍事化にフェミニズムは対抗しうるか?」『女性学』13号(2006年)27-39頁。

松本克美「日本における法曹養成と臨床法学教育の現状と課題 研究者の視点から」『法律時報』79巻2号(2007年)49-54頁。

松本克美「後発的顕在化型不法行為と民法724条後段の20年期間の起算点 規範的損害概念の提唱および公訴時効との異同について」『立命館法学』310号(2007年)424-454頁。

松本克美「キャンパス・セクシャル・ハラ
スメント訴訟と大学の教育研究配備義務

大学と加害教員の責任の併存及び大学の
処分の相当性をめぐって」『立命館法学』
300号(2006年)453-488頁。

松本克美「セクシャル・ハラスメント 立
法・裁判同行の外観と労働および教育研究現
場での防止責任の焦点」『日本の科学者』41
巻7号(2006年)10-15頁。

二宮周平「認知制度は誰のためにあるのか
～認知推定方法説の試み」『立命館法学』
立命館法学』310号(2007年3月)301-351
頁。

二宮周平「民法772条と戸籍のない子」『戸
籍時報』609号(2007年)22-39頁。

二宮周平「夫婦別姓(選択的夫婦別氏制
度)」『ジュリスト』1336号(2007年)10-18
頁。

二宮周平「1996年『民法の一部を改正す
る法律案要綱』とその後の状況」『法律時報』
78巻11号(2006年)19-24頁。

二宮周平「人工生殖と親子関係」『戸籍時
報』607号(2006年)11-34頁。

秋林こずえ「軍事主義に抵抗する女性たち
『東アジア・米国・プエルト・リコ軍事
主義を許さない女性ネットワーク』」『アメリ
カ史研究』No.29(日本アメリカ史学会2006
年)89-103頁。

〔図書〕(計 8件)

池内靖子『女優の誕生と終焉 パフォーマ
ンスとジェンダー』(平凡社、2008年)総351
頁。

池内靖子、西成彦編『テレサ・ハッキオン・
チャ 異教の身体』(人文書院、2006年3
月)総286頁。

姫岡とし子『ヨーロッパの家族史』(山川

出版社、2008年)総90頁。

姫岡とし子「日独における家族の歴史的
変化と家族政策」「新しい家族政策と「家族の
ための地域同盟」I ドイツの新しい家族政
策」本沢巳代子、ベルント・フォン・マデ
ル編『家族のための総合政策 日独比較の視
点から』(信山社、2007年)3-28頁。

二宮周平『家族と法』(岩波新書、2007年)
総241頁。

二宮周平『新版 戸籍と人権』(解放出版
社、2006年)106頁。

秋林こずえ「ジェンダーと人間保障 アジ
アから」田中かず子編『ICU21世紀COEシ
リーズ第7巻 アジアから見るジェンダー』
(風行社、2008年)55-69頁。

岡野八代「平和を求める 安全保障から
ケアへ」太田・谷澤編『悪と正義の政治
理論』(ナカニシヤ出版、2007年)214-241
頁。

〔その他〕

国際シンポジウム開催による成果

*特集「ケアと労働 移動する女たち」
『言語文化研究』20巻4号(2009年2月発
行予定)

岡野八代「はじめに」

鈴木伸枝「フィリピン人の移動・ケア労働・
アイデンティティ——移動労働政策、ジェン
ダー化、自己実現のはざままで——」

上野加代子「抵抗のストラテジー」

朴宣映「韓国における女性非正規労働の現況
と「非正規職法」が女性労働に及ぼす影響」

*特集 国際シンポジウム「公私二元論の
再考」『言語文化研究』19巻4号(2008年3
月)

岡野八代「はじめに」:129-130頁

マリア・ヤンソン(中川志保子訳)「母親業
を仕事から切り離す戦略」:131-182頁。

チャリダボン・ソングサンファン(高橋慎一
訳)「タクシンの女たち - - 私的領域の女性
と公的

権力 - - 」: 183-212 頁

アイリーン・トン(金城美幸訳)「地域通貨
運動 女性の家内労働の承認に向けて?
- - 」: 213-236 頁。

姫岡とし子「シンポジウム「公私二元論の再
考」に参加して」: 237-241 頁。

冬季企画シンポジウム

* 「映画・女性・権力 ジェンダーと視覚
性」『言語文化研究』18 巻 2 号(2006 年 11
月)

池内靖子「はじめに」: 2 頁。

竹村和子「マゾヒスティック・エイジェンシ
ーの(不)可能性」: 3-13 頁。

斉藤綾子「境界、映画の身体、女性」: 15 -
30 頁。

池内靖子「アイデンティティ(脱)構築の迷
路」: 31 - 43。

田崎英明、李静和「コメントおよび質疑応
答」: 45 - 57 頁。

6 . 研究組織

(1)研究代表者

二宮 周平(NINOMIYA SHUHEI)

立命館大学・法学部・教授

研究者番号: 40131726

(2)研究分担者

松本 克美(MATSUMOTO KATSUMI)

立命館大学・法務研究科・教授

研究者番号: 40309084

池内 靖子(IKEUCHI YASUKO)

立命館大学・産業社会学部・教授

研究者番号: 80121606

中川 成美(NAKAGAWA SHIGEMI)

立命館大学・文学部・教授

研究者番号: 70198034

岡野 八代(OKANO YAYO)

立命館大学・法学部・教授

研究者番号: 70319402

姫岡 とし子(HIMEOKA TOSHIKO)

筑波大学・人文科学研究所・教授

研究者番号: 80206581

江川 ひかり(EGAWA HIKARI)

立命館大学・文学部・教授

研究者番号: 70319490

坂本 利子(SAKAMOTO TOSHIKO)

立命館大学・産業社会学部・教授

研究者番号: 90331115

秋林 こずえ(AKIBAYASHI KOZUE)

立命館大学・国際関係学部・教授

研究者番号: 90377010

徳久 恭子(TOKUHISA KYOKO)

立命館大学・法学部・准教授

研究者番号: 60440997

大塚 陽子(OTSUKA YOKO)

立命館大学・政策科学部・教授

研究者番号: 30368021

内藤 葉子(NAITO YOKO)

近畿大学・経営学部・講師

研究者番号: 70440998

(3)連携研究者